

第5回 地域生活の医療的ケアを考えるフォーラム

医療的ケアの必要な人たちが、安心・安全な地域生活をおくるためには、医療・福祉等のニーズに応える環境づくりが求められています。QOLの高い地域生活のための取組みを紹介していただき、今後の在り方を考えたいと企画しました。ご参加のほど、よろしくお願いいたします。

1 日時 平成22年11月27日(土) 10:30~16:40 受付開始10:00

2 会場 国立オリンピック記念青少年センター
国際会議室 電話 03-3467-7201
最寄駅 小田急線参宮橋駅下車徒歩7分
東京メトロ代々木公園4番出口徒歩10分

3 参加費 資料代等 1000円

4 主催 特定非営利活動法人 地域ケアさぽーと研究所

5 対象 対象:医療的ケアの関係者
(家族・福祉・医療・教育・行政等)

6 次第

10:30~10:40 あいさつ 飯野順子(NPO法人地域ケアさぽーと研究所・理事長)

10:40~11:20 ◆ケアホームと医療的ケア①

「朋に通い続けるために~第3の「生活の場」としてのケアホームのあゆみ~」

田崎憲一さん(社会福祉法人訪問の家 ケアホームきゃんぱす)

(社福)訪問の家が、平成6年3月に最初のグループホームを開設してから、16年以上が経過し、障害の重い方の地域生活の支援の実績を積み重ねてきています。これまでの歴史とノウハウを紹介していただきます。

11:20~12:00 ◆ケアホームと医療的ケア②

「障がい者のケアホーム立ち上げに向けて」

石澤修一さん(NPO法人療育ねっとわーく川崎)

平成23年3月にケアホームを開所予定。ケアホームづくりが現在進行形の中、具体的な取り組みや開所を考えたいきさつ、夢や願いをお話しいたします。

12:00~13:00 《 昼食・休憩 》



13:00～13:40 ◆ケアホームと医療的ケア③

「ケアホームへのヒアリング中間報告」

下川和洋(NPO法人地域ケアさぼーと研究所)

本年度、当会は独立行政法人福祉医療機構の助成を受けて「医療的ケアの必要な人のグループホームのあり方に関する研究」を行い、各地のケアホームに対してヒアリングを行っています。その中間報告を致します。更に、重い難病の子どもを家庭的な環境の中でケアすることを目的とした「子どもホスピス」についても触れたいと思います。

13:40～15:40 ◆講演「日置真世のおいしい地域づくりのためのレシピ50」

日置真世さん(NPO法人地域生活支援ネットワークサロン非常勤理事事務局顧問・北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター子ども支援研究部門助手)

斜里町生まれ、釧路育ち。重度障がいの長女を筆頭に3人の娘の母。1993年3月発足した子どもたちの健やかな成長を願う「マザーグースの会」から2000年に4月に事業体として独立し、12月にNPO法人化。それまでの主なテーマであった障害児の子育てに限らず、広く福祉のまちづくりを目指すため地域にシステムを作ったり、人を育てたり、資源を発掘開発したりする福祉分野のコミュニティワーカーとして活動。自称「緩やかな市民革命家」。

15:40～16:00 《 休憩 》

16:00～16:30 ◆介護職が行う医療的ケアの今

川口有美子さん(日本ALS協会理事)

障がい者制度改革推進会議第一次意見(平成22年6月7日)、規制・制度改革に関する分科会第一次報告書(同年6月15日)、更に厚生労働省「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会」など介護職が関わる医療的ケアについて、議論が行われています。日本ALS協会は様々な形でこうした議論等に参加されてきました。介護職の行う医療的ケアについて過去そして現在までの動向をお話いただきます。

16:30～16:40 あいさつ 飯野順子(NPO法人地域ケアさぼーと研究所・理事長)

7 定員・申込・問い合わせ

定員はありません。ただし資料の準備のため事前に以下へメール又はファックスでご連絡ください。

タイトル・件名に「医療的ケアフォーラム申込」、本文に参加者氏名と所属をお書きください。

宛先 下川和洋 E-mail kazu.shimokawa@gmail.com ファックス 042-561-8945

なお、ファックスでお申込いただいた場合は特に返信は致しませんので、当日会場へおいでください。